

パーソナルの保護者通信

第3号 勉強論を少々。

保護者の皆様へ。いつも大変お世話になっております。

「棒暗記」という言葉があります。その本質、理屈には目を向けず、物事をそっくりそのまま覚えることを指します。この棒暗記に関する持論と勉強への向き合い方について、今回は私の考えるところを記してみます。ご家族で共有されることがあれば幸いです。

ここで、最も大切なのは当然質より量です。勉強に関して、量をしっかりこなさないのに質を考えるのはナンセンスです。まずは量。これは大前提…。

まずお伝えすることは「棒暗記というのは決して効率的ではない」ということです。モノを覚えるにはその情報量は少ない方がいい(余計な情報はできるだけそぎ落とす方がよい)と考えるのは勘違いで、人はモノを覚えようとするときに意図的に棒暗記することを避けます。「歴史上の出来事の年代を語呂合わせで覚える」というのはその例で、語呂そのものに本来暗記する価値はないにも関わらずあえて“無駄な情報量”を上乗せした状態でモノを覚えようとします。一度に吸収する情報量を多くすることは「本当に覚えたいモノ」に自分なりの理屈を与えるための手段であって、勉強を効率化する上でのコツでもあります。

同じ類の話として、人はある分野を極めれば極めるほど、その分野における記憶の定着速度が飛躍的に向上していきます。新たな知識や考え方を得たとき、これまでに学習してきたこととリンクさせて即座に知識同士が自動的に線で結ばれてゆきます。この繋がりをいくつも認識することで、忘れにくく、かつ忘れたとしてもすぐに周辺知識から思い出せる状況を作り出すのです。知識が複合体として纏まっていくイメージです。“問題を俯瞰して見る力”というものを生徒によく話しますが、これは、そうやってできたひと塊の“体系”のどこにその問題が位置するのかを探るようにして見る、ということです。

「未知の英単語も一目見れば忘れない」とは私がピッカピカの高校生であった時代の英語教師から聞いた言葉です。英語に触れる機会が多く専門的に学んできた経験

から自然に得た能力だと説明されましたが、今なら納得できます。私も数学の問題を一目見ると意識せずとも細かい数字の設定含めて頭に残ることが多く、これは数学というものに触れ続けたこと、意識してひとつの体系を築き上げてきたことによって得られた“ちょっとした能力”だと考えています。(昔はそんなことはできませんでした。)超有名な某クイズ系ユーチューバーがクイズに正解したあとに「ちなみに…」とさらに雑学を畳みかけて解説するなんて芸当をしてよく場を驚かせますが、それも「大量の知識を線で結ぶようにして覚えている」ことによるものと考えれば納得ができます。

ここまで記したように、「棒暗記」については効率的な学習法とは言えないという主張を持っているのですが、反して私はこれを悪いことだとは考えていません。別の方向性のメリットがあると考えているためです。

それは、いつでもどこでもできてしまう「圧倒的な手軽さ」にこそあります。勉強とは机に向かってするものがすべてではありません。だって、自分の脳は机や、紙や、ペンなんてものが無くても好きに動かすことが出来るから。紙に“ああだこうだ”と書き込み熟考する時間は取れなくても、単語帳が一冊あればどこでも頭に知識を流し込むことが出来ます。教科書が1冊あれば、いつでも熟読して頭にその内容を叩き込めます。何もなくても知識の反芻ができます。これにより1日の学習時間を一気に稼ぐことが出来るわけで、これがメリットとしては大きいのです。

手段としての「棒暗記」を如何に上手に活用するのか。“理解の伴った暗記”が良しとされるのは、(すなわち棒暗記が忌避されるのは)“理解を伴った方がものを覚えやすい”からという先の主張のほか、“入試では単純な暗記のみでは正答できない捻りのある問題が出題される”からです。(そしてそういった問題でこそ差がつきやすい。)ただし棒暗記にもメリットがあるわけで、何でもかんでも理解を伴うべき、もしくは棒暗記で乗り切るべき、という二者択一の議論にはなりえず、その選択を上手に行うことこそ受験を制するカギであると言えます。

故に、生徒目線で言えば学校教師、塾講師に質問ができる環境は最大限利用すべきで、例えば数学に関して言えば「この問題の解法は覚えた方が良いのか、もっと根本的に抜けている考え方が自分にはあるのか」、「この解法の発想はどんな知識、思考手順があってそれが湧くのか」などを質問する生徒は“教師、講師の使い方”がうまい生徒であり、自ずと成績を上げていきます。これに関しては、また別の機会で記させていただきます。

今週もご覧いただきありがとうございました。